

海洋システム科通信 12月号



今年最後の「ようこそ！」(小学生水産教室)



広田小学校



高田小学校



気仙沼小学校



高田小学校、広田小学校、気仙沼小学校のみなさんが今年度最後の水産教室に参加した！
 海洋システム科の3年生がかまぼこ作りや船の運転、ロープワークを教えたぞ！

果曹以

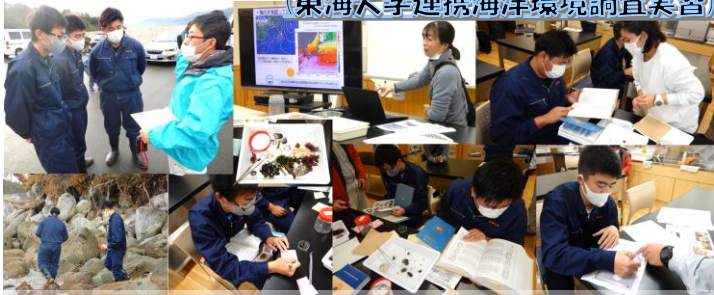
くろそい

今旬
 岩手魚



受け継がれた意思

(東海大学連携海洋環境調査実習)



海洋科学コースの2年生が東海大学さんとJAMSTECさんの協力のもと、昨年度3年生が取り組んだ広田湾での海洋調査を受け継いだ！

身近な科学(栽培漁業講習会)



広田湾栽培漁業センターの高橋さんに講義して頂いたぞ！海洋システム科全員で聴講し、貝の養殖や生態について科学的な視点から理解を深めた！

おかえり！！(新巻鮭製造実習)



今年もシロサケが川に戻ってきたぞ！2年生が捌いて汚れを落とし、塩漬けして新巻鮭を作った！

先生の独り言 vol.9 「最期の別れ」

タコは子育てをする生物として知られている。寿命は1年から数年だと考えられているが、その一生の最後に1度だけ繁殖を行う。繁殖を終えたオスは力尽きて死んでしまうが、メスは外敵に見つかりにくい岩陰などで産卵し子育てを始める。

実は、海の生き物の中で、子育てをする生き物はとても少ない。食うか食われるかの海の世界では、エネルギーを子育てに使うより、オスであれば闘争や求愛に、メスであれば卵の数に使うほうが、子供をより多く残せるためである。そして、多くの場合、子育てはオスの仕事である。メスは産卵に多くのエネルギーを使うため、繁殖後に余力のあるオスが子育てをするのである。タコのようにメスが子育てすることは、広い海でもとても珍しいのだ。

タコが子育てする期間は、タコの種類にもよるが1か月から数か月と言われている。この間、母ダコは餌を一切口にすることなく、ずっと卵のそばにいる。時々、卵についたゴミやカビを取り除いたり、

新鮮な水を送ったりしながら、我が子が元気に生まれてくるまで愛情を注ぎ続ける。そして、子育てに全てを捧げてボロボロになりながらも、卵を狙う者ものは決して許さない。例え、自身より大きな敵であっても全力で追い払うのだ。

だから卵から子どもたちが生まれる時、母ダコには泳ぐ力さえ残っていない。足を動かす力もない。子どもたちの誕生を見届けると、安心してように横たわり、力尽きて死んでゆく。母ダコの最期であり、我が子との別れの時である。



子育てする母ダコ



卵から巣立っていく子ダコ